

東風見聞録

平成26年1月発行 通巻56号

イーストウインド・プロダクション 田中正人・竹内靖恵

群馬県利根郡みなかみ町鹿野沢637-M302

電話・FAX 0278-72-9292

世界選手権を終えて

昨年12月に開催されたアドベンチャーレーサーの頂点を決めるARWC（世界選手権）、コスタリカ・アドベンチャーレース。イーストウインドはトップ10入りを目前にし、ゴールまであと残りわずかというところで、中村雅美が転倒して左ほお骨を骨折。残念ながらここでリタイアを決断しました。

結果は残念でしたが、各自課題が見つかり、それをクリアすることで次の大会に向かって精進していきます。

皆様、応援、支援をありがとうございました。



【コスタリカ・アドベンチャーレース 大会情報】

大会日程：2013年11月29日～12月12日（レース日は12月2日～11日の10日間）

開催地：コスタリカ

競技種目：トレッキング、ラフティング、カヤック、マウンテンバイク、ロープアクティビティ、ナビゲーション

距離：約815km

ウェブサイト：<http://www.arcostarica.com/CostaRica/>



ゴール直前での落車によりコスタリカでの入院が長引き大変ご心配をおかけしました。顔面骨折と脳挫傷で入院となり、はじめの頃は酷い頭痛と目眩で目を開けるのもやっとでしたが、1月初旬に退院いたしました。

今回本当にたくさんの方々の応援を頂きながらリタイアという結果にしてしまった事を大変申し訳なく思っております。これからリハビリからのスタートですが、コツコツやっていますので温かく見守っていただけましたら幸いです。

中村 雅美



暖かい応援、ありがとうございました。皆様のお陰で、コスタリカで開催されたアドベンチャーレースの世界選手権を終えることができました。レース序盤の立ち上がりは、もたついていたものの、2日目、3日目と日を重ねるごとに自分たちのペースを取り戻し、徐々に順位を上げて行くことができました。また、先住民が昔ながらの生活を続ける村を通ったり、マングローブの生い茂る海岸から4000メートル近い高所まで、幅広い自然環境の中4人でレースを続けることができたのは貴重な経験です。文明が発達し、整備の行き届いた日本で生きていては全く見えない生活が、世界中で営まれていることを実感しました。

今回は丸9日間で800km近くを消化し、最後の7kmを残して事故のためリタイアを決断しましたが、この現実を受け入れ、反省を踏まえて次の結果につなげることが、責任であると思っています。

最後になりますがレース中に3ヶ月を迎えた息子、家庭を守ってくれていた妻に感謝したいと思います。彼らの支えなしに出場は叶えられませんでした。

山北 道智



アドベンチャーレースをはじめ7年、初めてメンバーがリタイヤしての完走となりました。815km、10日間のレースのゴールが目前に迫った地点でメンバーのアクシデントによりゴールは遠いものとなりました。改めて815キロの道のりを4人全員で乗り越えることの難しさを痛感することになりました。3人でのゴールはそれまでの壮絶な戦いを忘れてしまったかのようにポツカリと穴が開いてしまった感覚にとられました。世界最高峰でのレースで自分達の力を存分に発揮するためには、チームの総合力とどんなことにも屈しない信念で勝敗が決まることを見せつけられる結果となりました。メンバーひとりひとりが最低限のスキルを有し、かつ経験や精神力がともなっていなければ、強豪と、肩を並べることは難しい。今回のレースでもチーム内でサポートをしてチームの底上げをはかってきましたが、これには限界がありました。やはり、チーム内でのサポートは少ない方がいい、サポートをしたとしても、する方、される方の双方に体力やスキル等に差が低い必要性が高まりました。差が大きくなると、双方にかかる負担が大きくなってしまふ、今後はチームの総合力をあげていくことが強く求められます。

多くの方々からの惜しみ無い応援にこたえることができませんでしたが、次回への糧として今後も応援よろしくお願ひします！ありがとうございました。

田中 陽希



ARWC2013コスタリカ大会では、リタイヤという残念な結果に終わったことをお詫び申し上げます。序盤にレースの流れに乗れず最下位からのスタートとなりましたが、徐々に本来のレース展開に戻すことができ、10位くらいまで挽回することができました。レース終盤ではやっと一桁順位に届くかもしれないという追い込み時に、中村雅美が限界を超える頑張りを見せたのですが、極限に達してしまい自己コントロールを失ってマウンテンバイクにて転倒し、顔面を岩に打ち付けて頬骨骨折、脳に強い衝撃を与えてしまい、救急搬送される結果となりました。現在も現地病院の集中治療室にて脳の検査を続けている状態です。記憶が一部欠落しているようですが、意識ははっきりしております。多くの方々にご心配をお掛けして申し訳ありません。

今回のレースのポイントは、中村雅美にすべてが掛かっていたという感じでした。彼女は今年6月からチームに合流し、トレーニングを積んできました。ランニングでは好成績を収める実力を持っていますが、パドリング、マウンテンバイク、不整地走行などは苦手で、世界で戦うアドベンチャーレーサーとしては、初心者レベルと言わざるを得ません。その現状での挑戦となった訳ですが、彼女は本当に良く頑張ったと思います。七転八倒しながらも挫けることなく実践にて技術を向上し続け、とうとう10位くらいに順位を上げてきたのです。それに伴って我々男性メンバーも彼女に一人前のレーサーとしての資質を問うようになってきました。レースに対する意識レベルの向上や戦い方というものを叩き込むような感じだったと思います。

レース終盤に10位前後チームの集団からいち早く抜け出した我々は、順位がほぼ確定する最後のトランジションエリアに駆け込むために力走している最中に事故は起きました。それまでも彼女はマウンテンバイクで何度も転倒を繰り返しながら走行している中で、軽い脳震盪も起こしていたようです。「何で今自分がここに居るか分からない」などの発言があり、チームとしても注意をしていました。最後の追い込みでは、中村のダウンヒル走行の状態を見た田中正人が危険性を察知し、中村にスピードを落とすように指示を出している最中でした。中村も、チームが一桁順位に届く重要な場面であることを理解し、極カスピードを落とさないようにギリギリの走行をしていましたが、結果的には限界を超えてしまい事故に至りました。

一番悔しがっているのは中村だと思います。初めからチームの足を引っ張る存在という思いがあり、できるだけチームの迷惑にならないように頑張ってきたのに、チームをリタイヤさせることになった。あれだけボロボロに傷だらけになりながら頑張ってきたのに、10日間800km近く闘ってきたのに、あとたった7kmで順位が決する場面で致命的な事故を起こしてしまった。転倒直後の「もうこんなのいやだ！！」という中村の一言は、心の叫びだったと思います。中村にとっては本当に壮絶な闘いでした。これで一桁順位を獲得してハッピーエンドに終わるのが理想かもしれませんが、まだまだ実力も足りなく、意識レベルも低い中村にとっては、これ以上ない悔しい結末のほうが将来的な糧になるのかもしれませんが。一か月近い入院を経て、これから彼女の闘いが始まるのだと思います。

我々としては本当に素晴らしい戦いが出来たと思っています。コスタリカのコースはとてつもなくエキサイティングで素晴らしいものでした。語り尽くせない思いがあります。またもや素晴らしい体験をさせていただいた応援者の方々から感謝申し上げます。チームイーストウインドは、これからも世界の頂点を目指して邁進し続けます。ありがとうございました。

田中 正人

世界選手権・コスタリカアドベンチャーレース 放送決定

ARWC(アドベンチャーレース世界選手権)2013『コスタリカ・アドベンチャーレース』のテレビ放送日が決定しました。

BS1スペシャル

『駆け抜けろ！太平洋から大西洋へ ～コスタリカ縦断レース・850キロ～』

放送日：平成26年2月28日(金) 20:00～21:50



【みどころ】

6大陸の8か所で繰り広げられる“アドベンチャーレース”ワールドカップは、11月、エコツーリズム発祥の地として名高い中米コスタリカのジャングルで最終の勝者が決せられる。26か国60チーム、240名の選手が究極に挑む壮絶な耐久レースだ。

4人がチームとなり、絶壁や巨木、そして溪谷を昼夜なく走り抜ける。さらに海岸や山岳地帯を自身の足やマウンテンバイク、ラフティングなどで、技と体力を駆使し、10日間かけて850キロ先のゴールを目指す。

北のニカラグア国境から南のパナマ国境まで、まさにコスタリカ全土を縦断する。しかも、太平洋岸から大西洋岸へ向かうとともに、海拔はゼロmから3800mへ、気温は5℃から37℃、乾燥サバンナから熱帯多雨林・雲霧林など、自然環境は激変する。過酷な自然をどう克服するかが、レースのカギとなる。食料や寝袋などはすべて自分たちが背負って走るノンサポート。しかも昼夜の別なくレースは進み、休息、睡眠などは自分たちで判断する。自己管理能力や判断力、生活技術などの力が問われるサバイバル・レースだ。

番組では、並走撮影や空撮など、多角的な映像取材を行い、最終決戦のハイレベルな戦いの様子を、舞台となるコスタリカの豊かな自然の中に描く。